

地A地研たより

2018年8月8日

No. 44

発行者 有村宏紀

文責 黒瀧善和

夕張古道・夕張川 地名を巡る

たびに新しい発見が報告されています。今回は、岩見沢市上志文渡場から夕張に至る道について、同定できそうな所を巡っていきます。

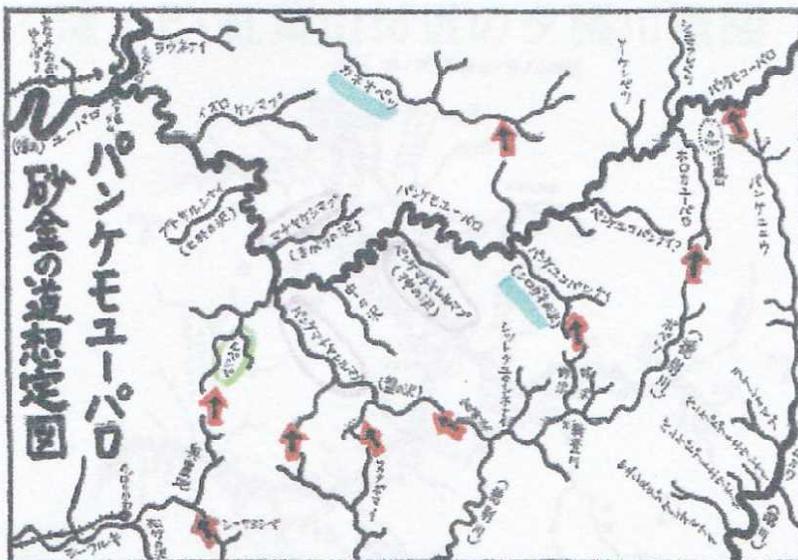
夕張道路は、角田開拓に入った泉麟太郎がアイヌ道(古道)を基に 1889 年(M22)刈り分け道をつけ、さらに、1890 年(M23)夕張炭山開坑の着手を契機に新しい道路をつけた経緯がある。アイヌ古道は、古くからアイヌが通っていた道で、モセウシ川沿いが湿地だったことから今より東の山側を抜けていたことが当時の地形図からもわかるが、どこを抜けていたのか、道筋が大きく変わっており、今では解明が難しくなっている。水本顧問は現地の探査や聞き取りを進め、一定見解をまとめており、今回、確認を含め探査する事としました。写真は 1914 年(T3)開業した万字線と夕張道路の交差したあたり、渡場方面を望んでいる。



志文と上志文の間。万字線と夕張道路の交差したあたり

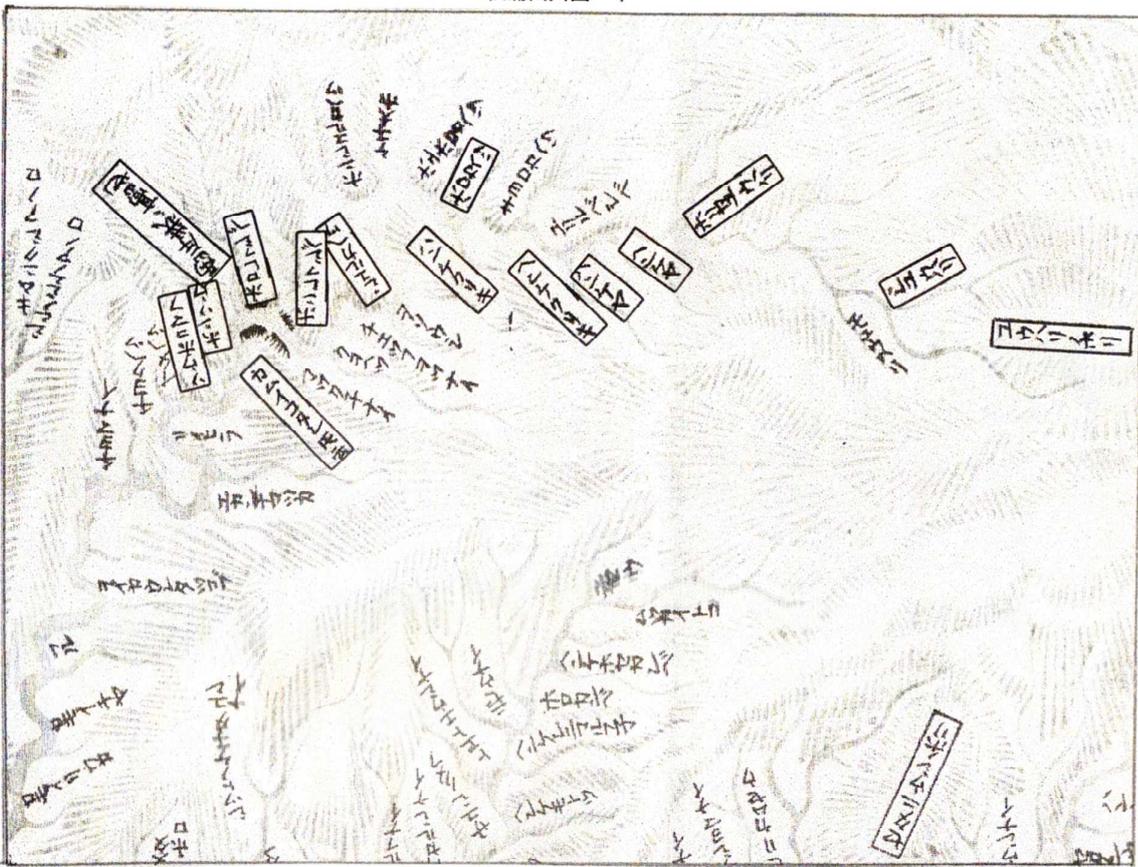


夕張は金山？！



17世紀、和人は金を求めて各地に入り採掘したが、アイヌとの間の紛争の原因となった。夕張は 1600 年代の資料にも登場する所であり、「金」に関わる地名が残されている。時間の関係もあり今回は、探査しないが、「カネオベツ」(kane-ot-pet 金がちやごちやある川)がシューパロ湖に流れ込んでおり、実際に 30 年ほど前まで砂金採りの方が居住していた。左は高橋慎氏が作成した夕張川上流部の砂金想定図である。カネオベツ以外にも金にかかわっての通行が示されており、金以外にも日高・十勝との交通路として重要な役割を果たしていたことが推測される。

松浦山川図に見る夕張川浴いアイヌ語地名



『東西蝦夷山川取調圖を読む 尾崎 功』161ページより
 松浦武四郎北海道命名150年記念 北海道出版企画 センター



夕張市史 より

下図は、上図をもとにまとめたもの(池田実氏) 杓和カッ ヌルバシ 杓カウリ ハンヤ など位置関係が不明だったり、名前がわからなかったり(杓カッ)している。実際の踏査ではなく、聞き取りによりまとめた部分も関係したと推測される。(kiro-ru ka pet ?)